

# 集団に於ける対抗意識・目標意識の成果への

## 影響に関する行動経済学的分析

### 社会提言プログラムにおける リーダーシップ行動から

村松 我矩（経済学部 4 年）

指導教員：大垣 昌夫

本研究では社会提言プログラムのパフォーマンスについて高得点・中得点・低得点グループの参加者にインタビュー調査を行い、そこからグループ内での外的＝対抗意識、内的＝目標意識がパフォーマンスに与える影響についてのメカニズムについて述べる。また良いパフォーマンスのために対抗意識・目標意識を変えるためには集団内に於けるリーダーシップの重要性、必要性について述べる。インタビュー調査の結果、外的な意識すなわち対抗意識についてはその対抗意識の強さが成果物に対する意識をそがれてしまうこと、また他グループに対する意識の強さのあまり成果物のクリエイティビティーが失われてしまうことから対抗意識の強さがパフォーマンスに悪い影響を与えるということ、一方、内的な意識すなわち目標意識については、グループ内の目標設定について、初期に設定した目標を強固に守り続けるグループより支離滅裂といわれながらも目標を何回も再設定するグループのほうが、プロジェクトの進捗に即した適切なものとなるためパフォーマンスが向上するというメカニズムがあることがわかった。その一方でそれらの外的意識＝対抗意識や内的意識＝目標意識はグループ内の結束に効果をもたらしているという側面もある。このような意識らをパフォーマンスという目的のために適応させるためには組織内に於けるリーダーシップの発揮の仕方が重要である。

このようなパフォーマンスに悪い影響を与えるような外的意識＝対抗意識や内的意識＝目標意識が発生する背景としてグループ内の統治に利用されているという側面があることもわかった。とりわけ、グループのメンバー間の結束の弱いグループではその結束をとるために意識を外、すなわち他のグループ

に向けることや最初に設定された目標に回帰することにつながっているというメカニズムがあるということである。さらに一方で結束の強いグループでも目標意識が強くなっている。これはグループのメンバーの結束が強すぎるあまり、同調圧力や現状維持バイアスが強くはたらき、目標意識の変更などによってグループ内に出来上がった和を乱すことへの嫌悪感が強くなってしまふことから発生しているというメカニズムがある。またグループでの結束が一定まで強くなるまでは傾聴を基本としたサーバント型リーダーシップが用いられていたが、その後の段階で、意識が成果物以外にそれないように調整・矯正するためには支配型リーダーシップが高得点グループでは用いられていた。

これらのことから、高いパフォーマンスを達成させるメカニズムとして、成果物・パフォーマンスに集中すること。意識を対抗意識やグループ統治のためではなく成果物のために投入すること、そのためには適切なタイミングで適切な方法でリーダーシップをとること、切り替えることが重要であるということがわかった。